狂句百味筌

全部四冊

上

2378
199

色と酒 うき世の教を 飛のぼり

浮世街道教早解序

色と酒は慾と復讐と知ぬし生涯の猿千辛萬苦志つく彼を討量を尋て其仇を報せんと謀ものハ未必しもあらずかしされバ農工商共に此憂を解事を後し世俗の諺にえ男子外に出る則ハ七人の敵ありといふされバ年々歳々花相似たる合巻の敵打も行雲の跡にしげき藻の根なしごとゝハ知ども頻なる客の数に迷ひ歳々年々視人同じからざれバ寺雑蔵仇打乃戯作を設け珍敷名所旧跡をえ出しぬ所べども教る敵の閑道と題号をくだして書肆栄林堂の栞梓を潤さんと欲するのみ

東里山人戯誌

新繪草紙

遠 2378 199

文化十三

史記詩林
東

小盃
九陽
金清
長子
實太良
太郎
兵衛
駕籠
足元摘
立鳥

長者妻
福富久

實

休所
茶
賣

丙午の春新板
緑亭川柳作
勇齋國芳画
山口板
下

山東京傳 著

京山制製

十三年ぶり

曲亭馬琴製

勇力

精製寺心丸

貫

幣

幣

實

東里山人戯作

香閨屋

口上

一包 代七十二銅

東里山人作
まつらさま張さくし 全部 五冊

清明辻占草紙 全部 二冊

長尾流書札四季文章

歌川美丸圖画

歌川豊国画

東都御江戸繪図大成